

# 葱の花芽分化並びに抽苔に関する試験 (予報)

小原 昶\*・近藤雄次\*・難波宏之\*

OHARA, T., KONDO, Y. and NANBA, H.  
On Flower-Bud Differentiation and Bolting of Welsh Onions.

はしがき 葱の晩抽系品種の育種並びに越冬不抽苔栽培技術を確立する為、その基礎資料として花芽分化とその後の抽苔の状況について品種、移植、苗重量等との関係を明らかにするべくこの試験を行った。

材料及び方法 供試品種は育成系、越津、九条太、晩の4品種で9月10日に播種された。区の構成は直播区、移植したものは苗重量により12月10日植は1gm, 3gm, 5gm, 2月10日植は4gm, 8gm, 12gm, 16gmの各区に分け、調査は1月15日以降10日ごとに行つた。試験結果の概要は次の如くである。

成績及び考察 1. 花芽分化期は品種によつて明らかな差異が認められ、越津が最も早く以下九条太、育

成系、晩の順であつた。

2. 花芽分化率は直播区、2月10日植に比し12月10日植が越津を除き低い値を示した。品種については越津が最も高く、以下九条太、育成系、晩の順であつた。

3. 大苗ほど花芽分化期が早く、分化率も高かつた。

4. 抽苔時期及び抽苔率については花芽分化の場合と同様な傾向を示し、花芽分化の早い品種ほど抽苔が早く、抽苔率も高かつた。

以上の結果から抽苔時期及び抽苔率に対しては品種による影響が最も大きく、又苗重量の影響も大きい事が認められた。尚、花芽分化を起す温度とその期間、苗令は品種によつて異なると思われるので更に検討を行いたい。

\*福岡県農業試験場